

# 桜並木

題字：辻村達雄 様

デイケア桜の里 ご利用者様



新元号

令和



初春の令月にして、  
梅は鏡前の粉を披き、  
蘭は珮後の香を薫らす。

いよいよ『令和』がスタートしましたね。新元号発表当日の4月1日はドキドキしながらテレビを観ていた方も多いのではないでしょうか？

デイサービス・コスモスではさっそくご利用者様に新元号の2文字を毛筆でしたためていただきました。「昭和は遠きになりけり」と時代の流れを感じつつ、「令和が明るい時代となりますよう」との願いを込めて書いてくださった力作をどうぞご覧ください。

桜並木

第45号  
令和元年5月



医療法人  
秋桜会

〒851-2211  
長崎市京泊3丁目30番3号  
TEL 095-850-6866  
FAX 095-850-4888  
WEB [www.cosmos-garden.com](http://www.cosmos-garden.com)

facebook もご覧ください

公式サイトへ  
QRコードで  
簡単アクセス



cosmos-garden

# さくらの花が咲き誇り、 春爛漫を感じました

春には桜の花見

各事業所で

長崎の今年の桜開花宣言は全国で最も早く3月20日でした。41年ぶりの出来事だったようですね。

法人内各事業所では、桜の花を観にご利用者様と一緒に出かけをしてきました。記念撮影した一部をご紹介します。



# 弾ける笑顔が眩しい 3名です♪

入社式 | 新入職員へ辞令交付

医療法人秋桜会



人手不足と言われる昨今ですが、当法人では新社会人となった3名を介護職員として迎えることができました。

青く晴れた4月1日、緊張感に包まれた雰囲気の中、辞令交付を行いました。前途有望な若い力に刺激をもらい、私たちもあらたな気持ちになることができました。まずは、新しい環境に早く慣れてもらうことが大事。

そして少しずつでいいので成長してくださることを願うばかりです。3名の弾けるような笑顔は天命を知ったはずのアラフィフ(50歳前後)の私には眩しすぎるものでした(笑)。皆様も今後の活躍にご期待下さい!

## グループホームのある日

「春の息吹を感じる味覚は？」と言われて、ツワブキを思い浮かべた方はいらっしゃいますか？ツワブキを茹でて醤油などで味つけして煮物にすると美味しいですよ～。

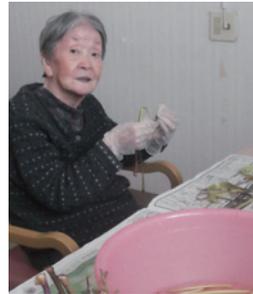
グループホーム新港4階・グループホームコスモス2のそれぞれでは入居者様と一緒にスタッフが持ってきてくれたツワブキを調理しました。このツワブキ、皮をむいて水にさらして灰汁抜きする必要がありますが、皮をむくのが大変！！素手でむいていると指先や手のひらが真っ黒になってしまいます。なので、ビニール手袋をつけてみたりとチョットした工夫が必要。中には包丁で上手にむくことができる技能をもった方が世の中にはいらっしゃるようですが、そのような人材はここにはおらず…。皆様と一緒にワイワイと話しながら地道に手で皮をむきました。普段は控えめな方が、台所に来て茹で方などを教えて下さったり、「私が茹でておくよ」と進んで調理をしてくださったりと、まさに「昔取った杵柄」。

できあがったらさっそく皆様といただきましたが、野菜を嫌いな方が美味しそうに食べている姿にはスタッフ一同驚きました。

また、グループホーム新港4階ではヨモギも持ってきてくれたので、よもぎ団子も一緒に作りましたヨ。ツワブキのほろ苦さと団子の甘味。至福のひとつときでした。

### 季節を味わう

グループホーム新港4階  
グループホームコスモス1及2



春 spring



左の写真はグループホームコスモス1のスタッフ。人呼んで「大阪粉モン文化の味を伝承する男」。見ればおわかりになるように作っているのはタコ焼き。タコ焼きが「季節の味」なのかはさておき、施設では評判の味で、入居者の皆様に時折、その腕前を振るってくれます。

そしてもう一つの粉モンといえばお好み焼き。こちらでも評判の味で、入居者様を診察して下さっている医師に召し上がっていただいたところ、「次はいつ作る？」とリクエストが来るほどです。

ただ、ひとつ問題がありまして…。ホットプレートでどちらも焼くのですが、いっぺんに数台のホットプレートを使用すると電気のブレーカーが落ちてしまいます。そんな悲哀を背負い、今日も彼はホットプレートの前に座り、黙々と焼き続けるのでした。

連載小説

## 「僕の暗い青春」

作者：井下長治

※このお話は、フィクション？です

【今回から新章！】志望校である W 高に合格して晴れて高校生となったボク。期待を胸に高校生活が始まった。

▼今僕は父親と連れ立って歩いている、W高に向かって。中学を卒業し、き～坊は警察犬訓練士の道へ、戸栗、くぼけん達は N 高や工業高校へと進み、みんな離れ離れになってしまった。一抹の寂しさはあるものの、これから始まる高校生活への弾むような期待がそれを打ち消してあまりあった。祖母の「行ってらっしゃい。」の聲に送られ晴れの入学式へ勇み出かけようとする僕に背後から大声が襲ってくる。「ちょっと待て、俺も行くけん。」父であった。『え～！』内心そう思ったけれども、とても口にはできない。華やいだ気分は一気にしぼんでゆき、小学校入学式の日のお出来事が脳裏をよぎる。あの時も母は自宅に残り、父が僕を引率した。教室に入るとそれぞれの机の上に大きなわら半紙がのせられており、平仮名で新一年生の名前が書いてあった。僕は自分の机を見つけると真新しいランドセルと上履きを入れた草履袋をそこに下した。刹那、「草履袋ば机の上に置くもんがあっか！」父の大声が響く。これから同級生となる他の新一年生やその父兄がいる中での叱責である。ひどく恥ずかしかった記憶が昨日のことであるかのごとく鮮やかに蘇ってきた。しかしながら、もう高校生にもなろうとする自分にとっては、入学式に父親の付き添いで出席しなければならない今日ほうがよほどの屈辱であった。息子の気持ちに露ほどの思いも至らない父は、その昔自分が学んだこの高校へ自分の子がまた通うとことに感慨一入の様子で、昔語りの折々さかんに相槌をもとめてくる。

▼学校に着くと校舎の一角に人だかりができており、近づいて見ると壁にクラス別の名簿が貼り出されていた。クラスを確認し教室へ向かうとさすがに父も居場所をなくし離れて行った。1年11組の担任は定年間近の老数学教師だった。やせ細った老教師は黒板に『小峰九十九』と大きく書き「九十九と書いてつくもと読む。私が今日から君たちの担任になる小峰九十九だ。年寄りと思って舐めてかかると大やけどするからその心構えで接するように。」そこまで言うといきなり出席簿を読み上げ自己紹介をさせた。一通り終えた後、彼は頭髪を角刈りにした3～4名の名を呼び立たせた上で「その滑走路みたいな頭はどうかせる。まるで職人風じゃないか。それから本山！お前は学校にパーマをかけて通うつもりか。元に戻してから出てこい。」名指しされた本山某女は何も言えず、今にも泣きだしそうな表情でうつむいていた。いたたまれなくなった彼女と同じ中学出身の女子が立ち上がり、「先生、それはちょっとひどすぎるんじゃないんでしょうか。本山さんとは小中学校と同じでしたが、初めから彼女の髪の毛は自然にカールしてました。生まれつきなんです。そのことで天然パーマとかからかわれたりしてきました。でも彼女は我慢していました。どうして学校の先生まで追い打ちをかけるようなことを言うんですか。」浦山という名の女生徒の訴えに気圧された九十九先生は呆気ないほど素直に「僕が悪かったごたるな、すまんかった。」と謝罪した。先ほどまでの言動は新入生に侮られまいとするこの華奢な老教師の虚勢だったのかもしれない。「まあしかし、その職人頭の滑走路はどうかせる！」と言葉を続けどうにか威厳を保てた。(つづく)